

# 「バッグ」育ちカキすくすく

県漁協中津支店が中津干潟で取り組んでいるカキの試験養殖が軌道に乗り、7日から試験販売をする。国内では珍しいオーストラリア方式の養殖法で、殻が美しく身が甘い、などの特徴があるという。

中津干潟では以前、アサリなどが豊富に取れたが、環境の変化などで激減。支店では代わりの産品にと、2012年度からカキの養殖に取り組んでいる。



## 中津干潟、オーストラリア方式軌道に

国内で主流のいかだからロープをつり下げる方法では、季節風が強い中津干潟では難しいため、稚貝を養殖バッグに入れて横に張ったワイヤにつるすオーストラリア方式を導入した。1年目は1万個、2年目は1万6千個の稚貝を入れ、順調に育っている。今後さらに規模を拡大する方針だ。

4日に小祝漁港で試食会があり、県や市の関係者ら約60人が参加した。焼きガキ、蒸しガキ、カキフライなどが出され、「うまみが強い」などと好評だった。

試験販売は小祝漁港で16日まで。カキ定食などを出す。営業は午前11時〜午後3時。午後2時オーダーストップ。問い合わせは中津支店（0979・22・2103）へ。